



ペルー南部アンデスの町パウカルタンボでは、毎年7月15日からの4日間、町全体を舞台にした盛大な仮面の祭りが行われる。16種類の仮面で着飾った踊り子たちが、朝から晩まで歌いながら町中の路地を踊り歩く。

仮面は、ペルーの歴史や風土に関係のあるものがモチーフとなっており、アンデス高地の商人、悪魔、アマゾン部族、黒人奴隷、アンデス庶民やパン屋、闘牛士、黄熱病病原菌など実に色とりどり。踊りも衣装もバラエティーに富んでいる。だが、そんなことよりも強烈な顔の作りを観客は圧倒され、さらびやかさと、独特で時には滑稽にも見える踊りに、誰もが引き込まれてしまう。

祭りは町のカトリック教会に納められた聖女カルメンをたたえる催しだが、観客は遠くから見ているだけではない。踊り子たちが客を巻き込んでプレゼントを配る日もあれば、観客が聖女カルメンに触れたいという願いをかける日もある。また、生前に踊り子だった先祖を忘れないようにと、墓地で華やかなダンス合戦まである。この町の出身者でなければ踊り子にはなれないが、パウカルタンボの祭りは、集まった人全員で盛り上がる、活気に溢れた見応えのある祭典だ。

春 夏
秋 冬

22

7月 聖女カルメンの祭り

アンデス 仮面踊りの大行進



文・写真=すずき ともこ

フォトエッセイスト。ペルーを拠点に、環境問題、先住民の文化習慣など世界の情報をメディアを通して紹介している。著書に『アンデスの祭り』、『世界遺産の町クスコで暮らす』(共に千早書房)など。